

ききキカコ (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

作家の伸びやかな感性を感じさせる鍛金によるカウベルです。金属の温かな手触り感と用の美を併せ持った作品に魅了されました。鍛金の槌の音と繋がるのでしょうか。素朴な音を奏でる楽器であると共に、オブジェとしての存在感を持つ作品に、可能性を感じます。工芸と音楽のコラボレーションという新たな世界も生まれそうです。

株式会社丹青ディスプレイ [丹青ディスプレイ賞]

葛西 由香 (Galleries-1F Gallery Monma)

日本画チックな素朴で繊細な筆と現代性のハーモニーにひきこまれました。また、作品の説明を伺い作品とタイトルの持つ意味に和みました。仕事スペースにかざり、ホッと一息つきたいと思います。

川村 喜久 [川村文化芸術振興財団賞]

伊藤 匠 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

宇佐美 賢祐 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

鈴木 知佳 (SelectionGYM-2F ex-chamber museum 推薦)

田中 里姫 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

山本 真実江 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

菊池 麻衣子 [パトロンプロジェクト 菊池麻衣子賞]

古橋 香 (SelectionGYM-2F 鷺田めるろ 推薦)

2022年の3331アートフェアでは、2階の評論家やキュレーターによる推薦作家セクションが見ごたえあり、集中して拝見していました。めぐり歩いていると明度の高いグリーンやブルーが輝いているように見えるセクションがあり、ずっと引き寄せられました。それが、古橋香さんの展示コーナーでした。描かれているのは抽象的ですが、山や湖森を感じる開放的な情景。たまにデコレーションケーキの上に分厚く盛り付けられた生クリームのような絵の具の塊が分厚く塗り潰けられているのもおいしそう(笑)で魅力的！ランダムに横切る白い線は、光線だということを彼女から聞いて、「だから絵がまばゆいんだ！」とうれしくなり、購入すると同時に「パトロンプロジェクト菊池麻衣子賞」とさせていただきます。これからのご活躍も楽しみにしております。

木越 純 [木越純賞]

國久 真有 (SelectionGYM-2F 3331 Arts Chiyoda 推薦)

直感的にイイ！と思いました。線がキャンパスの外にまで続いているので、シンプルながら広がりや深みを感じました。

吉田 ショウヘイ (TRI-FOLD OSAKA アトリエ三月 / サロンモザイク / gekilin.)

素材・色・形・モチーフが何重にも重なりつつ、心地よいリズム感を生み出しているやさしい作風が印象的でした。選ぶなら素材感を活かした作品にしたいと考えていましたが、その中でも丁寧な工芸的な作りとデザイン的な構成力に惹かれました。

木村 博行 [木村博行賞]

菅原 果歩 (SelectionGYM-2F 秋田公立美術大学)

色合い、支持体、モチーフがどれも素晴らしく、この先も見たいと思いました。

KaceK [KaceK賞]

岩崎 奏波 (Galleries-1F Room_412)

不思議ないきもの達は、宇宙の法則の映し絵のようだがここでは、作家の慈愛のもと静かに息づいている。

ひみつの庭の小さな陽だまり。食卓の蠟燭の灯り。声を出さない、猫のにやあ。

儂い束の間の平和だからこそ、その永遠を願わずにいられない。

葛西 由香 (Galleries-1F Gallery Monma)

清少納言の枕草子で驚かされるのは、その心情の瑞々しさが千年失われていないことだ。

葛西由香の「もののあはれ」が千年色褪せないことを、私は夢想する。

加藤 真史 (Galleries-1F CRISPY EGG Gallery)

眼を奪われ、視線が釘付けになった。

これは地図だ。それも社会学や政治学、いや、思想すら秘めた我々現代日本人への観る海図だ。

そこでは、いつかどこかで、誰もが見た風景が幻視される。

しかし、そこから湧き上がる観照は見る人それぞれへ、かけがえのないこれからの人生への道標と勇気を、きっと与えてくれる。

立田 一葉 (SelectionGYM-2F 五美術大学交流展)

迷いのない描線に、巧みな色彩のコントラスト。一見するや、その青空に吸い込まれ魅了された。

永遠の瞬間。

ここで、作家が魔法をかけたのもう一つの次元、時間に対してなのだ。

無限、無窮の時空に身を委ねて、観て欲しい。